



シチズン時計マニファクチャリング株式会社 ミヨタ佐久工場



腕時計のムーブメント（駆動部）をライン製造する工場では世界最大級となる移転新築工事。工場を半径85m、高さ4mの塙で覆い、雑多な配管類、設備類を隠し、清潔な精密工場のイメージを創った。設備類は屋根上から排除し地上面に設置することで、維持管理を容易に行うことができ、スカイラインもスッキリとさせた。

建物の特長の一つが、中庭で「すべての従業員のために」という施主のコンセプトから、工場内で働く従業員が休憩時間に自然光に触れリフレッシュでき、また中庭を周回することで自分の居場所がわかりやすく移動距離を短くした。中庭に面した回廊は、1階が従業員と資材、2階が見学者の動線というように明確に分離することで安全面を配慮した。

佐久地域の気候を踏まえ、屋根は断熱2重折板+発泡ウレタン吹付、外壁はALC+発砲ウレタン吹付、ガラスは断熱複層ガラスを用いて断熱性能を高めた。工場内の温度を1年中ほぼ一定に保つため、排熱をエントランスホールに床に回し冷暖房効率を高め、冬季はペリメーターゾーンから吹き出し結露防止に利用している。

もう一つの特長は、外部に作り込んだ緑地帯で「公園の中に工場」をイメージし、フェンスを無くして約60種800本の高木で敷地外周部を覆い、さらに約40種2万4000株の低木類を植栽した。国道沿いは紅葉の美しい樹種、県道沿いは桜など花を楽しめる樹種、メインゲートから北へまっすぐ延びる構内道路はモミジバワの並木が整然と並び、その向こうに浅間山が見える風景を作り出した。

夜には高木類のライトアップとともに、Rの塙を時計に見立て60等分したアップライトが時計工場のイメージを創造し、エントランスホールには田根剛氏デザインのインスタレーションがキラキラとホタテの間から見え隠れする美しい建築に仕上げた。



撮影：ロココプロデュース

▶建設地：佐久市根々井113-1他
▶構造規模：S造、一部W造2階建て、延べ2万717㎡
▶竣工：2016年9月

設計 ARCHIPLAN 株式会社 アーキプラン 代表取締役 竹内 邦雄 長野市南千歳1-7-127フロムワンビル3F TEL 026-227-4831

施工 清水建設株式会社 関東支店 長野営業所 所長 鎌倉 孝光 長野市南石堂町1277 長栄第2ビル7F TEL 026-226-0181



南相木村 移住定住促進施設「たまる家」



▶建設地：南佐久郡南相木村4499-1
▶構造規模：木造（伝統工法）2階建て、延べ275.55㎡
▶竣工：2017年3月

南相木村には、誇るべき原風景をなす歴史的な古民家が多数残存し、中島・加佐地区には58棟の古民家・土蔵が存在します。そのひとつである築150年の古民家「たまる家（旧中島家）」を改修し、民家再生を行いました。

「たまる家」再生にあたっては、村内の古民家を一軒一軒訪ねて形体調査や分類。そこに暮らす人々から地域の歴史や生活様式、民家の地域的特性をヒヤリングし、再生に必要な建築測量は勿論、痕跡調査と歴史検証を通して改修履歴なども調査しながら再生方針を多角的に検討しました。

具体的には①地域性を重視して伝統的空間を再現②伝統工法を尊重し限界耐力による耐震補強を採用③既存建具などの素材を再利用または既存デザインを再現④設備や管理を最小限にシンプル化⑤外部空間は現状を尊重し造りすぎず将来的に発展的活用を考慮—などを再生の方針とし、職人の施工誤差もおおらかに受け入れ、山村文化の「人となり」を磨き出せるように心がけました。

設計 横山建築研究所 代表取締役 横山 泰彦 安曇野市豊科南穂高3390 TEL 0263-72-2671

施工 株式会社 黒澤組 代表取締役 黒澤 和彦 南佐久郡小海町千代里3162 TEL 0267-92-2158



佐久市 道の駅ヘルシーテラス佐久南



国道142号と中部横断自動車道が交差する、「佐久南IC」正面に完成した「道の駅」です。懸垂曲線をイメージした「大きな屋根」は、雄大な田園風景と伸びやかな里山の稜線に調和し、様々な人・物・情報が行き交う風景を軽やかに覆う、新しいランドマークです。

農業による「健康長寿」をテーマとし、一年を通じて農産、物産、体験イベントを提供できるフレキシブルな大空間が求められました。

構造は、市有林唐松を大断面集成材に加工し、ダイナミックで軽快な架構形式としています。勾配を変えて連続する梁を「見せる」ことで空間に変化を与えながら、地場産材の温もりを身近に感じられるインテリアです。

環境配慮では、積極的に再生可能エネルギーの採用（地中熱利用による空調、太陽光による発電）を図り、また、市の主要な防災拠点として、構造強度や設備バックアップ機能に配慮しました。さらに木造準耐火（燃え代+メンブレン型）や避難安全検証により、要求機能と安全性のバランスを図りながら、地域の「寄るところ」となることを目指しています。



▶建設地：佐久市伴野7番地1
▶構造規模：W造平屋建て
▶延べ面積：1825.91㎡
（市産材集成材 210㎡）
▶竣工：2017年3月

設計・監理 エーシーエ設計・魁設計事務所 設計共同体

ACA 株式会社 エーシーエ設計 取締役社長 関口 浪男 長野市柳原2360-4 TEL 026-296-8300

kai 有限会社 魁設計事務所 代表取締役 土屋 正明 佐久市野沢306-12 TEL 0267-63-6355

施工 <建築> 株式会社 竹花組 代表取締役社長 矢野 健太郎 佐久市望月30-1 TEL 0267-53-2345

<機械設備> 木下建工株式会社 代表取締役 木下 修 佐久市白田623-1 TEL 0267-82-2213

<市有林材集成材加工> 齋藤木材工業株式会社 代表取締役社長 齋藤 廣 小県郡長和町4294 TEL 0268-68-3535



佐久市 ホワイトキューブ(小田井の家)



▶所在地：佐久市小田井
▶構造・規模：S造2階建て、延べ面積179.97㎡
▶工事期間：2014年8月20日～2015年6月29日

佐久市の新興住宅街の一角にある女性1人暮らしのすまいである。プライバシーの保てる家でありながら開放性の高い生活空間を望まれた。2階をLDKからなる生活の中心として、プライバシー確保のため、東側の道路面、南側の隣家側はキャンティレバーの奥行き深いバルコニーがせり出し、地表面からの視線を遮断する断面計画とした。

1階はピロティ形式のガレージを核として繊細な骨組みのディティールとして、2階の居住空間が浮遊して見えるデザインとした。クライアントからの白を基調とした屋根のないシンプルなプロポーションの希望に沿うように周囲のアレバ住宅に同化すべく、シリンダー状からなるホワイトキューブの単純なフォルムとした。

LDKからは平屋富士の山々をバックに、唯一東側に残っている雑木林の四季の変化をLDKの大きな窓をピクチャーウィンドーとして自然の風景を内部空間に取り込んでいる。太陽光が降り注ぐLDK、断熱性を高め、メンテナンスの少ないオール電化住宅として計画している。

設計 甘利享一建築設計舎 主幹 甘利 享一 〒384-0092 小城市平原1680 TEL 0267-23-3225
http://members.ctknet.ne.jp/a-a-a/ FAX 0267-25-0066

総評

長野県建築士事務所協会の建築作品賞を永年引き継いでいた柳澤孝彦先生の昨年9月のご不幸から9ヶ月が過ぎた平成30年5月19日、作品審査にあたった一同は、柳澤孝彦先生の業績を讃えるとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。アーキテクト・マインドが建築家にとってこそ大切である点を強調されてきた柳澤先生は、これまでの作品審査で厳しきながらも温かい眼差しを作品に向けておられました。松本市のご出身である柳澤先生は、信州の建築と景観に熱い思いを寄せられました。

今回、応募いただいた作品7件は、どれも柳澤先生に見ていただいたかったものばかりでした。小規模な古い建物の再生から、大規模な工場の新築まで、スケールの異なる作品が寄せられたのですが、いずれも信州の景観や地域性に配慮されたものでした。南相木村移住定住促進施設「たまる家」は、小規模な古い建物の再生で、文化的な扱い方で古い建物の姿を保ったものです。対して、シチズン時計マニファクチャリング株式会社ミヨタ佐久工場は、大規模な工場の新築で、円形に配置された個々の白いポリュームを様々な無数の樹木が囲む姿のものでした。

いずれの作品も、信州で育まれた技量が体現されたものでしたが、選考の結果、この二点が最優秀賞に選ばれました。信州建築という地域に根ざした作品群が、地域で愛されながら、全国や世界で評価されていくことが期待されます。

平成30年度
建築作品賞委員会
委員 土本 俊和
(信州大学工学部教授)